

【2017年2月8日】日本大学 A 方式(数学)

[1]

(1) 2次方程式 $3x^2+5x+8=0$ の2つの解を α, β とするとき、

$$\alpha^2+\beta^2 = -\frac{\boxed{1} \boxed{2}}{\boxed{3}}, \quad \alpha^3+\beta^3 = \frac{\boxed{4} \boxed{5} \boxed{6}}{\boxed{7} \boxed{8}} \text{ である.}$$

(2) 連立方程式

$$\begin{cases} x^2 + \frac{4}{3}x - \frac{4}{3} = 0 \\ |3x+1| \leq 4 \end{cases}$$

を解くと、 $-\frac{\boxed{9}}{\boxed{10}} \leq x \leq \frac{\boxed{11}}{\boxed{12}}$ である。

(3) 円に内接する四角形 ABCD において、

$AB=2\sqrt{3}, BC=2, CD=\sqrt{2}, \angle ABC=30^\circ$ であるとき、

$$AD = \frac{\sqrt{\boxed{13} \boxed{14}} - \sqrt{\boxed{15}}}{\boxed{16}} \text{ である.}$$

(4) 3つの直線

$$\begin{cases} x-2y-4=0 \\ 2x+y-3=0 \\ m^2x+my-2m-9=0 \end{cases}$$

が1点で交わるような定数 m の値は $m = \frac{\boxed{17}}{\boxed{19}}$, $-\frac{\boxed{18}}{\boxed{19}}$ である。

(1) 解と係数の関係より、

$$\alpha + \beta = -\frac{5}{3}, \quad \alpha\beta = \frac{8}{3}$$

したがって、

$$\alpha^2 + \beta^2 = (\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta = \frac{25}{9} - \frac{16}{3} = -\frac{23}{9} \quad \dots \text{圈}$$

$$\alpha^3 + \beta^3 = (\alpha + \beta)(\alpha^2 - \alpha\beta + \beta^2) = -\frac{5}{3} \left(-\frac{23}{9} - \frac{8}{3} \right) = \frac{235}{27} \quad \dots \text{圈}$$

$$(2) \quad x^2 + \frac{4}{3}x - \frac{4}{3} \leq 0 \iff (x+2)\left(x - \frac{2}{3}\right) \leq 0 \iff -2 \leq x \leq \frac{2}{3} \quad \dots \text{①}$$

$$|3x+1| \leq 4 \iff -4 \leq 3x+1 \leq 4 \iff -\frac{5}{3} \leq x \leq 1 \quad \dots \text{②}$$

①かつ②より、

$$-\frac{5}{3} \leq x \leq \frac{2}{3} \quad \dots \text{圈}$$

(3) $\triangle ABC$ に余弦定理を用いて、

$$AC^2 = (2\sqrt{3})^2 + 2^2 - 2 \cdot 2\sqrt{3} \cdot 2 \cos 30^\circ = 4$$

一方、 $AD=x$ とおき、 $\triangle ACD$ に余弦定理を用いて、

$$AC^2 = x^2 + (\sqrt{2})^2 - 2x \cdot \sqrt{2} \cos 150^\circ$$

$$\iff 4 = x^2 + 2 + \sqrt{6}x$$

$$\iff x^2 + \sqrt{6}x - 2 = 0$$

$$\iff x = \frac{-\sqrt{6} \pm \sqrt{14}}{2}$$

$AD=x>0$ より、

$$AD = \frac{\sqrt{14} - \sqrt{6}}{2} \quad \dots \text{圈}$$

(4) 2直線 $x-2y-4=0, 2x+y-3=0$ の交点 $(2, -1)$ が、もう1本の直線上にもあればよいから、

$$m^2 \cdot 2 + m \cdot (-1) - 2m - 9 = 0$$

$$\iff 2m^2 - 3m - 9 = 0$$

$$\iff (m-3)(2m+3) = 0$$

$$\iff m = 3, -\frac{3}{2} \quad \dots \text{圈}$$

[2]

(1) 2, 2, 3, 3, 3, 5, 5 の7個の数字から6桁の整数を作るとき、6桁の整数は

$\boxed{20} \boxed{21} \boxed{22}$ 通りできる。また、そうして作った6桁の整数のうち、5の倍数になるものは $\boxed{23} \boxed{24}$ 通りある。

(2) 関数 $y = \sin^2 x \cos x + \sin x \cos^2 x + \sin x \cos x$, (ただし $0 \leq x \leq \pi$), において、

$t = \sin x + \cos x$ において y を t の式で表すとき、 t の取り得る値の範囲は

$$-\frac{\boxed{25}}{\boxed{29}} \leq t \leq \sqrt{\frac{\boxed{26}}{\boxed{30}}} \text{ である. また、} y \text{ の最小値は } -\frac{\boxed{27} \boxed{28}}{\boxed{29} \boxed{30}} \text{ である.}$$

(3) x の方程式 $2^{2x} - 4 \cdot 2^{-x} = 6$ を解くために、 $X = 2^x$ において X の方程式として表すと

$$X^{\boxed{31}} - \boxed{32} X - \boxed{33} = 0$$

である。よって、 $x = \log_2(\boxed{34} + \sqrt{\boxed{35}})$ である。

(4) 数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とするとき、つぎを満たす。

$$\begin{cases} a_1 = \frac{3}{4}, a_2 = 3 \\ S_{n+2} - 5S_{n+1} + 4S_n = 0 \end{cases}$$

このとき、 $S_{n+1} - S_n = a_2 \cdot \boxed{36}^{n-1} \cdot \boxed{37}$ を得るので a_n を求めることができる。

よって、例えば $a_6 = \boxed{38} \boxed{39} \boxed{40}$ である。

(1) 次の3つの場合を考える。

(i) 2, 3, 3, 3, 5, 5 を使うとき、

$$6 \text{ 桁の整数は } \frac{6!}{3!2!} = 60 \text{ (通り)}$$

$$5 \text{ の倍数は、一の位に } 5 \text{ を固定して } \frac{5!}{2!} = 20 \text{ (通り)}$$

(ii) 2, 2, 3, 3, 5, 5 を使うとき、

$$6 \text{ 桁の整数は } \frac{6!}{2!2!2!} = 90 \text{ (通り)}$$

$$5 \text{ の倍数は、一の位に } 5 \text{ を固定して } \frac{5!}{2!2!} = 30 \text{ (通り)}$$

(iii) 2, 2, 3, 3, 3, 5 を使うとき、

$$6 \text{ 桁の整数は } \frac{6!}{2!3!} = 60 \text{ (通り)}$$

$$5 \text{ の倍数は、一の位に } 5 \text{ を固定して } \frac{5!}{2!3!} = 10 \text{ (通り)}$$

(i)~(iii)より、

6桁の整数は $60+90+60=210$ (通り) ...圈

5の倍数は $20+30+10=60$ (通り) ...圈

$$(2) \quad t = \sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right) \text{ であり,}$$

$0 \leq x \leq \pi$ より、 $\frac{\pi}{4} \leq x + \frac{\pi}{4} \leq \frac{5}{4}\pi$ であるから、

$$-1 \leq t \leq \sqrt{2} \quad \dots \text{圈}$$

また、 $t = \sin x + \cos x$ の両辺を2乗して、

$$t^2 = 1 + 2\sin x \cos x \iff \sin x \cos x = \frac{1}{2}(t^2 - 1)$$

であるから、

$$y = \sin x \cos x (\sin x + \cos x + 1)$$

$$= \frac{1}{2}(t^2 - 1)(t + 1) = \frac{1}{2}(t^3 + t^2 - t - 1)$$

したがって、

$$\frac{dy}{dt} = \frac{1}{2}(3t^2 + 2t - 1) = \frac{1}{2}(t+1)(3t-1)$$

$\frac{dy}{dt} = 0$ となるのは、 $t = -1, \frac{1}{3}$ のときであり、

$-1 \leq t \leq \sqrt{2}$ の範囲において y が最小となるのは、 $t = \frac{1}{3}$ のときである。

その最小値は、

$$y = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{9} - 1 \right) \left(\frac{1}{3} + 1 \right) = -\frac{16}{27} \quad \dots \text{圈}$$

(3) $X = 2^x$ とおくと、

$$2^{2x} - 4 \cdot 2^{-x} = 6 \iff X^2 - \frac{4}{X} = 6 \iff X^3 - 6X - 4 = 0 \quad \dots \text{圈}$$

$$\iff (X+2)(X^2 - 2X - 2) = 0$$

$$\iff X = -2, 1 \pm \sqrt{3}$$

$X = 2^x > 0$ より、 $2^x = 1 + \sqrt{3}$ であるから、

$$x = \log_2(1 + \sqrt{3}) \quad \dots \text{圈}$$

(4) $S_{n+2} - 5S_{n+1} + 4S_n = 0 \iff S_{n+2} - S_{n+1} = 4(S_{n+1} - S_n)$ より、

$$S_{n+1} - S_n = (S_2 - S_1) \cdot 4^{n-1} = a_2 \cdot 4^{n-1} \quad \dots \text{圈}$$

$S_{n+1} - S_n = a_{n+1}$ より、

$$a_{n+1} = 3 \cdot 4^{n-1}$$

$n=5$ を代入して、

$$a_6 = 3 \cdot 4^4 = 768 \quad \dots \text{圈}$$

[3] 原点Oの座標平面上に、円 $C_1: x^2+y^2=1$ と円 $C_2: (x-6)^2+(y+6)^2=3^2$ がある。動点 P_1 は円 C_1 上を、時刻 $t=0$ で点(1, 0)から出発し、角速度 $\frac{1}{2}\pi$ で反時計回りにまわる一方、動点 P_2 は円 C_2 上を時刻 $t=0$ で点(9, -6)を出発し、角速度 $\frac{7}{10}\pi$ で時計回りにまわる。ここで、角速度とは1秒間に回転する角度の大きさを表すものとする。以下の問いに答えなさい。

(1) 動点 P_1 と動点 P_2 の距離が最短となるとき、 P_1 の座標は

$$\left(\frac{\sqrt{41}}{42}, -\frac{\sqrt{43}}{44} \right) \text{ であり, } \overline{P_1P_2} = \sqrt{45} \sqrt{46} - 47 \text{ である.}$$

(2) 動点 P_1 と P_2 が時刻 $t=0$ で同時に出発してから、(1)の状態に初めてなるのは

$$\frac{48}{50} \text{ 秒後である.}$$

(3) 円 C_1 と円 C_2 の共通接線のうち、第1象限を通りかつ傾きが -1 より大きいほうを l とする。 l と円 C_2 との接点をT、 C_2 の中心をSとする。 \overline{SO} と \overline{ST} のなす角を θ とするとき、 $\tan \theta = \sqrt{51} \sqrt{52}$ である。

また、 l の傾きは $-\frac{53}{56} + \sqrt{\frac{54}{55}}$ であり、直線 $y=-x$ と l の交点の座標は $(-\frac{57}{58}, \frac{58}{57})$ である。

(1) C_1, C_2 の中心を結ぶ線分と C_1, C_2 との交点に、 P_1, P_2 がそれぞれ一致すれば、その距離が最短となる。 t 秒後にそのようになると仮定すると、

$$\frac{1}{2}\pi t = \frac{7}{4}\pi + 2k\pi \quad \dots \textcircled{1}, \quad -\frac{7}{10}\pi t = -\frac{5}{4}\pi - 2l\pi \quad \dots \textcircled{2}$$

と表すことができる(k, l は0以上の整数)。

$$\textcircled{1} \iff t = \frac{7}{2} + 4k \quad \dots \textcircled{3}$$

より、これを $\textcircled{2} \iff \frac{7}{10}t = \frac{5}{4} + 2l$ に代入して、

$$\frac{7}{10}\left(\frac{7}{2} + 4k\right) = \frac{5}{4} + 2l \iff 5l - 7k = 3 \quad \dots \textcircled{4}$$

例えば、 $(k, l) = (1, 2)$ はこれを満たす。

このときの P_1 の座標は $(\cos \frac{7}{4}\pi, \sin \frac{7}{4}\pi)$ より、 $(\frac{\sqrt{2}}{2}, -\frac{\sqrt{2}}{2})$... 答

また、

$$\overline{P_1P_2} = (C_1, C_2 \text{の中心間距離}) - (C_1 \text{の半径}) - (C_2 \text{の半径}) \\ = 6\sqrt{2} - 1 - 3 = 6\sqrt{2} - 4 \quad \dots \text{答}$$

(2) $k=0$ のときは $\textcircled{4}$ を満たす整数 l は存在しないから、(1)の状態に初めてなるとき、

$(k, l) = (1, 2)$ である。このとき、 $\textcircled{3}$ より、

$$t = \frac{7}{2} + 4 \cdot 1 = \frac{15}{2} \text{ (秒後)} \quad \dots \text{答}$$

(3) C_1 の中心Oから線分STに垂線OHを下ろすと、

$$SH = (C_2 \text{の半径}) - (C_1 \text{の半径}) = 3 - 1 = 2$$

したがって、 $\cos \theta = \frac{SH}{OS} = \frac{2}{6\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{2}}{6}$ であり、

$$\tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta} - 1 = 17$$

$$\tan \theta > 0 \text{ より, } \tan \theta = \sqrt{17} \quad \dots \text{答}$$

直線 l は、直線OS(傾き -1)を $\angle SOH = \frac{\pi}{2} - \theta$ だけ回転したものであるから、その傾きは、

$$\tan\left(-\frac{\pi}{4} + \frac{\pi}{2} - \theta\right) = \tan\left(\frac{\pi}{4} - \theta\right) = \frac{\tan \frac{\pi}{4} - \tan \theta}{1 + \tan \frac{\pi}{4} \tan \theta} \\ = \frac{1 - \sqrt{17}}{1 + \sqrt{17}} = \frac{-9 + \sqrt{17}}{8} \quad \dots \text{答}$$

直線 $y=-x$ と l の交点をUとすると、

$$OU : OS = (C_1 \text{の半径}) : (C_2 \text{の半径}) = 1 : 3$$

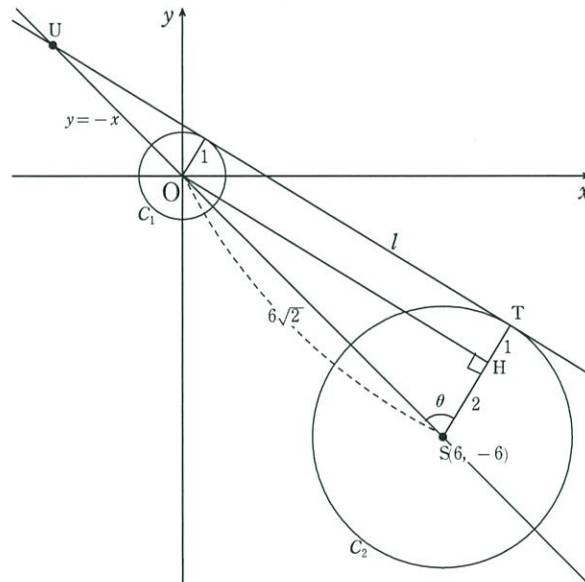
であるから、

$$OU : OS = 1 : 2$$

Uの x 座標を $-a$ ($a > 0$) とすれば、

$$a : 6 = 1 : 2 \iff a = 3$$

したがって、交点Uの座標は $(-3, 3)$... 答



[4] $0 < r < 1$ である定数 r を選び、 $n=1, 2, 3, \dots$ に対して関数 $f_n(x)$ をつぎで定める。

$$\begin{cases} f_n(x) = r^n \sin^3\left(r^{-n}\left\{x - \left(\frac{1-r^n}{1-r}\right)\pi\right\}\right), & (a_n \leq x \leq b_n) \\ \text{ただし, } a_n = \frac{1-r^n}{1-r}\pi, & b_n = \frac{1-r^{n+1}}{1-r}\pi \end{cases}$$

また、 $c_n = \int_{a_n}^{b_n} f_n(x) dx$, ($n=1, 2, 3, \dots$) とおく。次の問いに答えなさい。

(1) $\int_0^\pi \sin^3 x dx$ を求めなさい。

(2) c_1 を求めなさい。

(3) c_n を求めなさい。

(4) $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n c_k$ を求めなさい。

(1) $\int_0^\pi \sin^3 x dx = \int_0^\pi \sin x (1 - \cos^2 x) dx = \left[-\cos x + \frac{1}{3}\cos^3 x\right]_0^\pi = \frac{4}{3}$... 答

(2) $a_1 = \frac{1-r}{1-r}\pi = \pi, b_1 = \frac{1-r^2}{1-r}\pi = (1+r)\pi,$

$$f_1(x) = r \sin^3\left\{r^{-1}\left(x - \frac{1-r}{1-r}\pi\right)\right\} = r \sin^3\{r^{-1}(x-\pi)\}$$

である。 $r^{-1}(x-\pi) = t$ とおくと

$$dx = r dt \quad \begin{array}{l|l} x & \pi \rightarrow (1+r)\pi \\ t & 0 \rightarrow \pi \end{array}$$

(1)の結果を用いて

$$c_1 = \int_0^\pi r \sin^3 t \cdot r dt = r^2 \int_0^\pi \sin^3 t dt = \frac{4}{3} r^2 \quad \dots \text{答}$$

(3) $r^{-n}\left(x - \frac{1-r^n}{1-r}\pi\right) = t$ とおくと

$$dx = r^n dt \quad \begin{array}{l|l} x & \frac{1-r^n}{1-r}\pi \rightarrow \frac{1-r^{n+1}}{1-r}\pi \\ t & 0 \rightarrow \pi \end{array}$$

(1)の結果を用いて

$$c_n = \int_0^\pi r^n \sin^3 t \cdot r^n dt = r^{2n} \int_0^\pi \sin^3 t dt = \frac{4}{3} r^{2n} \quad \dots \text{答}$$

(4) 求めるものは、初項 $\frac{4}{3}r^2$ 、公比 r^2 の無限等比級数の和であり、 $0 < r^2 < 1$ より収束するので

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n c_k = \frac{\frac{4}{3}r^2}{1-r^2} = \frac{4r^2}{3-3r^2} \quad \dots \text{答}$$

[5]

曲線 K

$$\begin{cases} x=2\cos t + \cos 2t \\ y=2\sin t - \sin 2t, \quad (0 \leq t \leq 2\pi) \end{cases}$$

について、以下の問いに答えなさい。

(1) $0 \leq t \leq \frac{2}{3}\pi$ における曲線 K の長さを求めなさい。

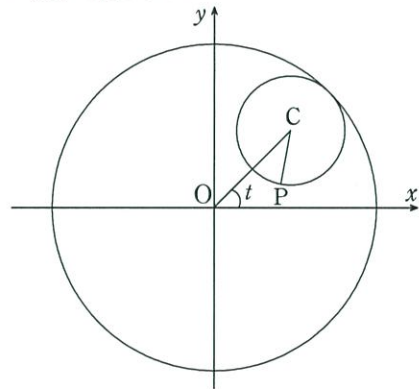
(2) 円 $O: x^2 + y^2 = 3^2$ に円 $C: (x-2)^2 + y^2 = 1$ が点 $(3, 0)$ で内接している。この接点における円 C 上の点を P とする。円 C を円 O に内接させながら、すべらないように O を中心として反時計回りに回転させる。このとき、点 P が動く軌跡は上の曲線 K に一致する。その理由を説明した以下の文章の空欄を適切な数式で補いなさい。答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

「簡単のため、 $0 \leq t \leq \frac{1}{2}\pi$ で考える。円 C の中心を C とするとき、線分 OC と x 軸のなす角を t とする。

このとき、 \overrightarrow{CP} とベクトル $(1, 0)$ とのなす角は $((ア))$ である。よって

$\overrightarrow{CP} = ((イ), (ウ))$ と表せる。一方、 $\overrightarrow{OC} = ((エ), (オ))$ であるから、 $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OC} + \overrightarrow{CP}$ より、 K に一致することがわかる。」

(3) 曲線 K の概形を描きなさい。



(1) $\frac{dx}{dt} = -2\sin t - 2\sin 2t$, $\frac{dy}{dt} = 2\cos t - 2\cos 2t$ より、

$$\begin{aligned} \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 &= 4[(\sin t + \sin 2t)^2 + (\cos t - \cos 2t)^2] \\ &= 4[2 - 2(\cos 2t \cos t - \sin 2t \sin t)] \\ &= 8[1 - \cos(2t + t)] = 8[1 - \cos 3t] \\ &= 8 \cdot 2\sin^2 \frac{3t}{2} = 16\sin^2 \frac{3t}{2} \end{aligned}$$

したがって、曲線 K の長さは、

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{2}{3}\pi} \sqrt{16\sin^2 \frac{3t}{2}} dt &= \int_0^{\frac{2}{3}\pi} 4\sin \frac{3t}{2} dt = -\frac{8}{3} \left[\cos \frac{3t}{2} \right]_0^{\frac{2}{3}\pi} \\ &= -\frac{8}{3} (\cos \pi - \cos 0) = \frac{16}{3} \quad \dots \text{答} \end{aligned}$$

(2) 点 $(3, 0)$ を A 、円 C と円 O の接点を Q とすると、 $\widehat{PQ} = \widehat{AQ}$ より、 $\angle PCQ = 3t$

したがって、 \overrightarrow{CP} とベクトル $(1, 0)$ のなす角は、 $3t - t = 2t$ … 答

\overrightarrow{CP} が負の向きに回転することに注意して、

$$\overrightarrow{CP} = (\cos(-2t), \sin(-2t)) = (\cos 2t, -\sin 2t) \quad \dots \text{答}$$

一方、

$$\overrightarrow{OC} = (2\cos t, 2\sin t) \quad \dots \text{答}$$

(3) $x(t) = 2\cos t + \cos 2t$, $y(t) = 2\sin t - \sin 2t$ ($0 \leq t \leq 2\pi$) として、

$$x(2\pi - t) = x(t), \quad y(2\pi - t) = -y(t)$$

が成り立つ。

よって、曲線 K の $0 \leq t \leq \pi$ の部分と $\pi \leq t \leq 2\pi$ の部分は、 x 軸に関して対称である。そこで、一度 $0 \leq t \leq \pi$ の範囲で考える。

$$\begin{aligned} \frac{dx}{dt} &= -2\sin t - 2\sin 2t \\ &= -2\sin t(1 + 2\cos t) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{dy}{dt} &= 2\cos t - 2\cos 2t \\ &= 2(1 - \cos t)(1 + 2\cos t) \end{aligned}$$

$0 \leq t \leq \pi$ のとき、 $-2\sin t \leq 0$, $2(1 - \cos t) \geq 0$ であるから、次の増減表が得られる。

t	0	...	$\frac{2}{3}\pi$...	π
$\frac{dx}{dt}$		-	0	+	
$\frac{dy}{dt}$		+	0	-	
(x, y)	(3, 0)	↖	$(-\frac{3}{2}, \frac{3\sqrt{3}}{2})$	↘	(-1, 0)

また、

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{dt}}{\frac{dx}{dt}} = \frac{1 - \cos t}{-\sin t} = -\frac{\sin t}{1 + \cos t}$$

より、

$$\lim_{t \rightarrow 0} \frac{dy}{dx} = 0, \quad \lim_{t \rightarrow \frac{2}{3}\pi} \frac{dy}{dx} = -\sqrt{3}$$

さらに、

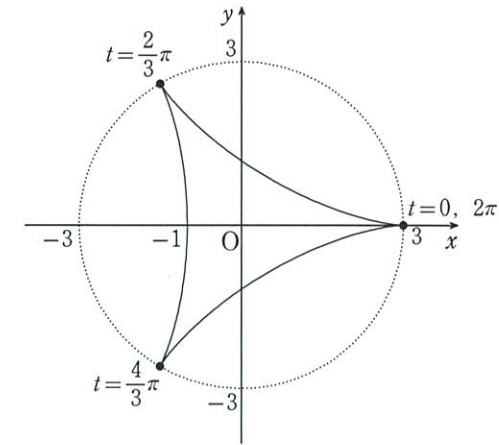
$$\begin{aligned} \frac{d^2y}{dx^2} &= \frac{d}{dx} \left(\frac{dy}{dx} \right) = \frac{\frac{d}{dt} \left(\frac{dy}{dx} \right)}{\frac{dx}{dt}} = \frac{-\cos t(1 + \cos t) - \sin t \cdot (-\sin t)}{(1 + \cos t)^2 \cdot (-2\sin t(1 + 2\cos t))} \\ &= \frac{1}{2\sin t(1 + \cos t)(1 + 2\cos t)} \end{aligned}$$

より、

$$0 < t < \frac{2}{3}\pi \text{ のとき, } \frac{d^2y}{dx^2} > 0 \text{ より } K \text{ は下に凸}$$

$$\frac{2}{3}\pi < t < \pi \text{ のとき, } \frac{d^2y}{dx^2} < 0 \text{ より } K \text{ は上に凸}$$

以上のことから、曲線 K の概形は次の図の実線部のようになる。



【講評】

- 基本問題の小問集合であり、落とせない。満点で通過したい。
- やはり基本問題の集合であり、落とせない。こちらも満点で通過すべき設問群。
- 図形的に考える問題。(1)は落とせないし、(1)の状況になる場合を考えれば、(2)も解答できたと思われる。問題は(3)で、式一辺倒で解くのは大変であるから、図形的に処理をしたい。相似な図形を考えるとよいだろう。
- 一見すると難しそうに見える問題。(1)(2)は具体的な計算であるから、ここは落とせない。(3)は、(2)の解答で、置換を用いて解答した経験を活かして解く問題である。置換に気付けば易しいが、本番では、少し戸惑った受験生もいたのではないだろうか。(4)は、(3)が解けていればすぐに解答できる問題であった。(2)までしか解けなかった者と、(4)まで完答した者が分かれる大問だと考えられる。
- 内サイクロイドの問題。同じ問題を解いたことのある経験があるか否かで、大きく分かれる問題であった。(1)は単純計算であるから、落とせない。(2)以降は、経験の有無で、完答できたかそうでないかが決まる。日大受験生ならば、受験日までには1度は経験している問題だと思われる。

全体として、昨年度よりも手のつけやすいセットであった。一次突破ラインは70%と思われる。

YMS勝利への大逆転講座

医大別直前講習会 二次試験対策講座

・昭和II 2/21⑧~2/28⑧ ・日大A 2/15⑧

・埼玉(後) 2/9⑧~2/11⑧ 申し込み受付中!

詳細はホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

TEL 医学部専門予備校 **03-3370-0410**

YMS www.yms.ne.jp

東京都渋谷区代々木1-37-14